

---

---

# 京大上海センターニュースレター

第 34 号 2004 年 12 月 6 日

京都大学経済学研究科上海センター

---

---

## 目次

○上海センター ブラウン・バッグ・ランチのご案内

○上海センター講演会のご案内

○渤海湾地区、東北三省、北京視察見聞記(下)

+++++

### 上海センター ブラウン・バッグ・ランチのご案内

(Brown Bag Lunch : BBLとは、お弁当など昼食持込自由のセミナーの事です)

日時 2004 年 12 月 13 日 (月) 12:00~13:30

場所 京都大学法経総合研究棟 2 階大会議室

地図 <http://www.econ.kyoto-u.ac.jp/loc/campus-map.html>

演題 「東アジアで今なにがおきているか」(仮題)

講師 外務省国際情報統括官組織第三国際情報官 垂秀夫氏 (本学法学部OB)

北京、香港、台北、朝鮮半島担当部署で勤務された経験をもとに、東アジアの現状と展望、特に日中関係、台湾海峡問題、朝鮮半島情勢、そして東アジアの域内連携について論じていただくものです。参加を希望される方は、北野([kitano@econ.kyoto-u.ac.jp](mailto:kitano@econ.kyoto-u.ac.jp) ないし FAX:075-753-3492)までご一報ください。

+++++

### 上海センター講演会のご案内

日時 2005 年 1 月 24 日 (月) 14:00~16:00

場所 京都大学百周年時計台記念館 2 階国際交流ホール

演題 「最近の中国事情と今後の日・米・中関係における日本の積極的役割について」

講師 日中経済貿易センター名誉会長 木村一三氏

木村氏は、1954 年に故高碓達之助氏の紹介で日中貿易に参画され、日中国交正常化にも民間人として尽力されました。日中交流の最古参として故周恩来首相から胡錦濤総書記にいたるまで、中国側有力者と親密な友人関係をもたれています。奮ってご参加ください。参加を希望される方は、北野([kitano@econ.kyoto-u.ac.jp](mailto:kitano@econ.kyoto-u.ac.jp) FAX:075-753-3492)までご一報ください。

\*\*\*\*\*

\*\*\*\*\*

## 渤海湾地区、東北三省、北京視察見聞記（下）

上海センター協力会副会長 大森経徳

次に、東北三省の振興について感想を報告する。まず主な訪問先、視察先は次の通り。

1. 瀋陽、長春、吉林市内。
2. 瀋陽では、このほか約 45km 東郊外の石炭の露天掘で有名な撫順炭鉱。
3. 長春では、旧満州国の最高行政機関だった国務院旧址（現吉林大学）及び旧関東軍旧址（現中国共産党吉林省委員会）
4. 吉林市南約 20km の松花江の豊満ダムと豊満発電所及び松花湖。
5. 在瀋陽日本国総領事館小河内総領事と面談。

まず、2. の露天掘で有名な撫順炭鉱は、日本が来てから開発されたものだそうだが、当初の西鉱区は約 30 平方 km という広大なもので、それを永年掘り進んだため、遂に深さ約 500m のところで鉱脈が尽きて、現在はその少し東の第二鉱区で同じく露天掘で掘られているそうである。こちらには行く時間がなかったが、そこの石炭を搬出しているトラックの運転手と親しくなり、その運転手の話では、この第二鉱区の広さは西鉱区の約 1/2 で 15 平方 km 位で、現在地表より 250m 位迄掘り進められているそうである。

次に、4. の豊満ダムであるが、これは旧満州国時代に日本が作った最大の土木工事と言われており、堰堤の長さ 1100m（黒四ダム 500m、三峡ダム 2000m）、ダムの高さ 101m（三峡ダムは約 180m）で、壮観であった。発電容量は誰に聞いても知らないので、結局分からずじまいだった。

長春行きの話であるが、朝 7 時 30 分に普通急行で瀋陽北駅を発ち、すぐに例の 9.18 事件の柳条湖を過ぎ、周恩来が中学時代を過ごしたという鉄嶺を通過し、長春駅に着いたのが 11 時 40 分、約 330km を 4 時間 10 分かかったことになる。この間車窓の景色は行けども行けども収穫の済んだトウモロコシ畑ばかり。緩やかな丘陵と平野がくり返すのみの単調な同じ景色が 4 時間以上も続いた。しかもこの間山は一切なし。“さすがに中国の東北地方（旧満州国）は広いなあ！”というのが実感である。さらに地図をよく見れば、長春からハルピン迄の約 300km もほぼ同じ様な平野が続いていることがよく分る。東北の米は中国で一番美味しく、且つ高い、とよく言われるが、その米を作っている筈の水田も、小麦畑（これは冬から春のものなので、今はなくて当たり前か）も一切目に入らなかつた。水田は一体どのあたりにあるのだろうか？

車中でチチハル市の製紙会社の採用係をしているという中年の男性と親しくなり、いろいろ会話をした。今、中国各地で電力不足が大きな話題になっているので、ここでも調査のため電力事情につき質問したところ、この男性の答えは極めて明快であった。彼氏曰く、「この辺りは重化学工業地帯で、しかも軍需産業が多い。が、この戦争のない平和な時代に、戦車も大砲も鉄砲も殆んどいらないので、20 トンプレス、30 トンプレスなども仕事がなくて昼寝をしている。従って下崗（シアガン＝レイオフされた実質失業者）も多く、皆貧乏で困っている。この辺りでまともに操業しているのは長春の第一汽車（中国の有名な高級乗用車“紅旗”を作っている自動車会社…フォルクスワーゲン、トヨタ、マツダ等とも提携）位しかない。だからまともに電力を使う様な企業は殆んどないので電力不足など全く起こり様もない」との話で極めて説得力があり、“納得”といった感じ。

ではその軍需工場は何を作って生き延びているのか、と聞くと、エレベータとか一般的な日用品を細々と作っているだけだ、とのこと。大半が国有企業だから倒産はないのだろうが、失業対策も含め地域経済活性化の足を引っ張っている状態が良く理解出来た。

こういう状況の上大連港迄遠すぎることもあり、また大連港以外に近くに大きないい港

もないので東北振興は大変困難な仕事だな、どんな手があるのか、農業以外でこの広い土地で一体何をしたらよいのか、一寸考えただけでは思いつかぬ位深刻な問題だと思った。

丁度瀋陽と長春の真ん中あたりに四平市というかなり大きな市があるが、そこへ来た時、例の中年の男性が説明してくれるのに、ここは第二次大戦後の国共内戦の時の大激戦地で、その折何もかも破壊され、その後今日迄結局立直れず、この辺りでは一番貧しい地域だ、と説明してくれたのが印象的だった。更に彼氏が曰く、長春迄行くのなら更に一寸足を延ばして、吉林市の南にある松花江の豊満ダムを是非見に行け、あれは日本が旧満州時代に作った最大の土木工事で、ものすごく大きなダムで且つ周りの景色も綺麗だ、春先は特に綺麗でいい所だ、との話だったので長春見学後吉林（長春の東 120km）迄行き、豊満ダムと豊満発電所並びに松花湖（人工湖）を見て来た。堰堤の長さ 1100m（高さ 101m）だけあってなかなか堂々とした風格のあるダムであったが、あの 1930 年代にこんな奥深い異国の地に、よくもまあこんな大きなダム（黒四ダムは 500m）を作ったものだ、と感心もし、びっくりもした。発電機はさすがに古くなったので今取り替え中であった。発電容量を質問しても誰も知らないのだから結局分からずじまいだった。

これらの現場視察後 11 月 1 日にあの有名な瀋陽総領事館で小河内総領事にお会いし、長時間に亘り意見交換をした。

その折総領事のおっしゃるのに、「東北振興が容易でないことは事実です。しかし、まさにそうした東北振興のネックになっている問題を中央政府の支援をも得て一つ一つ解決していこうというのが東北振興であると考えていただきたい。去る 3/30-3/31 の 2 日間仙台で東北三省の全省長、日本の東北 7 県の全県知事が参加して開催された仙台会議は、日中関係史上画期的なものと言える。その後、いくつかの日本の有力経済団体が瀋陽・東北を訪れている。ただ、東北振興に対する関心もさることながら中国側の積極性に引っ張られてお付き合いで来ているとの面もなしとはしない。ともあれ、仙台の次は来年 5 月ここ瀋陽でフォローの会議がジャパン・ウィーク（瀋陽市・日本総領事館共催）のなかで開催されることになっており、さらに大きな規模にすべく準備が進められているが、その成功を期待したい。再来年は「2006 瀋陽世界園芸博覧会」が中国最大規模で開催されることとなっています。何れにせよ、いきなり日本の投資が急増するというわけではないにしても、2020 年、2030 年という長期でみれば地理的接近性や心理的親近感もあり、この地域と日本企業との経済提携・協力関係は深まっていくことは間違いない。他方、基本的に東北三省の人は日本が好きで、日本語教育が盛んなことや水準の高さを誇りにしている他、いい人材が工場現場にも若者のなかにも多い。日本をよく知ってくれているし、親戚縁者で日本に行っている人や、行ったことのある人も多い。NHK が 2007 年以降における「坂の上の雲」の大河ドラマ化を検討しているが、これが実現すれば、このときに一つの東北ブームが来るのではないかと思う。」とのことであった。

瀋陽総領事のこの話を聞いてもう 1 つ疑問が解けた感じがすることがある。それは残留孤児のことである。あの戦争直後の混乱期に多くの日本人の子供を主に中国東北三省の農民が助けてくれ、もらってくれて育ててくれたのは何故だろう、とかねてから素朴な疑問を持っていたが、こういう感情が戦前からあったからだと分かった。ということは満州開拓団で行っていた民間日本人は殆んどの方々が現地の中国人農民達とも仲良くやっていたからでもある、ということにも気づいた。総領事のお話では、チチハルで遺棄化学兵器の爆発で大変なご迷惑をかけたのに西安やサッカーの折の様な騒ぎになっていないのもこうした日本に対する好感情がベースにあるからだ、とのご説明の意味もよく分かった様な気がする。

この項の最後に、この小河内総領事は日中間の相互理解と友好親善、日中間の問題解決によく努力されている結果、日本の総領事としては初めて、長春市と四平市の名誉市民に

なっておられることを報告しておく。

これらの見聞と、その後の北京の日本大使館での公使や一等書記官ほかの皆さん方との会談、ジェットロ北京の皆さんとの面談等々を全て合わせて小生の東北振興に関する直感的感想を述べると大体以下の通りである。

1. 現状では東北振興はかなり困難な仕事で簡単ではない。その理由は、
  - (1) 近くに良港がない。大連港迄遠すぎる。
  - (2) 広すぎ。物流インフラを相当急速によくする必要がある。
  - (3) 近年温暖化したとは言え、やはり寒冷の地で派遣される日本人スタッフの生活上の問題もありそうである。
  - (4) もっと近くて且つ良港にも近い開発区が中国にはまだまだ多い。
2. 従ってこれらのハンディをはねのけて東北を振興させる為には、
  - (1) 遼東湾の錦州か營口あたりと、北の図們江の出口あたりに大きな良港を作ること。又そこへの高速道路を整備すること。既に計画はあると思うが、特に北のハルビン市－牡丹江市－延吉市間の高速道路の整備が必要である。
  - (2) 南の沿岸部工業開発区と競争条件を揃える意味で、当分の間中央政府及び省政府は三重県の北川元知事がシャープを誘致した時の様な思い切った補助金を出すと共に税制面でも進出企業をバックアップし、競争条件を対等以上にする様な税優遇策を打ち出すこと。
  - (3) 優秀な日本語の出来る人材を更に多く教育し世に送り出すこと。
  - (4) 遠距離輸送のハンディの少ない業種…例えば IT 関係、コンピュータソフト関係、コールセンター等を選んで特別優遇政策を打出し誘致すること。
  - (5) 外資のみに頼らず、中国の有力企業で東北進出のメリットのありそうな企業、業種に、同じく税制面や補助金政策等で進出を後押しすること。
  - (6) 余った電力を華東地区へ売電すること。石炭産地や水力発電のし易い場所に発電所を多く作り、その発電収入を振興策に当てること。
  - (7) 農村他の若年余剰労働力に日本語教育をしっかりと、多くの優秀な研修生を日本へ送り出すこと。これは国策としての農民の総数そのものを減らすことにも役立つ。
  - (8) これらの諸施策を息長く続けると同時にその PR も長く続けること。これらを根気よく続けていると、やがて沿岸部が電力不足、土地不足、人手不足、交通渋滞等々によるコスト高になって来るので、少しずつ北へチャンスは広がって行くと思う。

最後に今の中国経済全体の懸念として、バブルではないか、少なくとも一部業種では既にバブル化しているのでは、との懸念もあり、中国政府は今年の 4 月以降マクロ調整、マクロコントロールが大切と全国に大号令をかけて来たが、この成果が徐々に表われてきつつある、ということに一言触れておく。

これは北京の日本大使館の一等書記官方 3 名の皆さんとの面談時に出ていた話だが、この 4 月、5 月からの中国政府のマクロコントロール政策は、かなり成果が上がりつつある。この点は在北京の欧米系大使館や同じく北京に駐在している欧米系シンクタンクが、この政策の浸透振り、成果を高く評価しているようで、朱鎔基首相時代のアジア通貨危機の折に人民元を切り下げなかった時に匹敵する様な高評価を得ている、又これによって中国政府の評判を高めている、タイミングも良かった、との話があったことをご報告しておく。

と同時に中国はまだまだ腐敗、格差ほか難問山積で中国政府は大変である、という話も出ていたこともつけ加えておく。